

学校教育推進室だより

東大阪市教育委員会学校教育推進室 令和2年3月23日
〒577-8521 東大阪市荒本北一丁目1番1号 TEL06-4309-3268~9

- 東大阪市学校教育基本目標
すべての子どもに生きる喜びとあすをつくる力を
- 東大阪市学校教育重点目標
 - 総合的視点に立つ教育の推進
 - 人間尊重に徹した人権教育の実践
 - 信頼に応える学校園経営
 - 学校園・家庭・地域の協働

中学校生徒会交流会



令和2年2月13日(木) 東大阪市中学校生徒会役員が東大阪市総合庁舎に集まり、「生徒会交流会」が開催されました。始めに11月に実施された「大阪府中学校生徒会サミット」へ市の代表として参加した長瀬中学校から報告がありました。続いて、今回は「SDGs(持続可能な開発目標)」をテーマとして、世界の課題について学び、生徒会として何ができるかを議論しました。

第一部は18階大会議室で、「SDGsカードゲーム」を行いました。このゲームは各グループ(国)が与えられた「時間」と「お金」のカードを使い、世界全体の「経済」「環境」「社会」を発展させていくというものです。ゲームを通じて、「SDGs」とは何か、達成するための難しさはどこにあるかを体験し、理解を深めました。また、他のグループとの協働によって、世界全体を発展させることができ、課題解決につながることを学びました。その後、2校が1グループとなり「SDGs」の17の目標の中から焦点を絞って、中学校生徒会としてどんな取組みができるかを考えました。



第二部は東大阪市議会議場に移動し、各グループから第一部でまとめた「SDGs」の17のゴールにつながる取組みの提案がありました。身近な課題に目を向けた「挨拶活動」・「地域クリーン作戦」・「いじめ防止の取組み」などの提案に対して、質問や感想など活発な議論が繰り広げられました。



今回、東大阪市議会議場で議論したことは、生徒たちにとって大変貴重な経験となり、今後の生徒の成長の大きな糧になることでしょう。また、生徒たちが学校の代表として、自覚と責任を持ち、積極的に発言している姿は、東大阪市の明るい未来を感じさせるものでした。今回、議論したことを各学校の生徒全員に伝えることや、中学校区で情報共有することで、一人ひとりが、「SDGs」につながる自分たちの取組みを広げていってくれることを期待しています。

市議会議場での開催については、東大阪市議会のご理解・ご協力をいただいております。

発達障がいにかかる

肢体不自由にかかる

巡回相談・巡回指導について

令和元年度も東大阪市立障害児者支援センターと協力して下記の事業を行いました。

巡回相談

「発達障害の診断を受けた子ども」に、学校園における指導や子どもの発達障害に係る特性をふまえた支援内容について、児童指導員から学校園に助言を行う事業です。

学校園からは「かかわる教員が統一した支援を徹底することで支援の必要な子が理解できるようになってきた。」「スケジュールがいつでも見れるということが安心感につながった。」という声がありました。

巡回指導

「肢体不自由のある子ども」が学校園での生活を円滑に過ごせるよう、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門家による生活介助、機能訓練面や教育支援について、学校園に指導助言等を行う事業です。

学校園からは「正しい姿勢をとり椅子に座ることで、運筆がスムーズになった」等の声があり、今後も子どもが「できる喜び」を感じる機会を増やしていきます。

学校園での特別支援教育の推進

- 自立活動の検討・見直し
- 「個別の指導計画・支援計画」の作成・見直し
- 全ての子どもたちにとってわかりやすい指示の出し方、過ごしやすい環境づくり



第5回学力向上支援コーディネーター連絡協議会を開催しました！

2月10日、東大阪市役所本庁舎18階研修室にて、小・中学校の学力向上支援コーディネーターを対象とした今年度最終となる連絡協議会を開催しました。

学校間交流では、中学校区として今年度の1年間を振り返り、取り組みの報告だけでなく、子どもたちの変容などを中心に、互いに交流を行いました。

市教委担当からは、次年度に向けて、校内研究のPDCAサイクルをより効果的なものとするため3つの観点について示しました(右スライド)。学校としての研究課題を設定し、課題の把握から課題改善のための実践、実践の効果検証という流れを意識した校内研究を推進していくことが大切です。

また、電子黒板の効果的な活用という点では、子どもたちの学習意欲の向上や視覚的なサポート等に加えて、言語活動の充実という視点を意識し、子どもたちが主体となるICT機器の活用が必要です。

参加者の先生からは、「次年度の校内研究をさらに進めていくために残り1か月半でできることを、学校に戻って先生方と見つけていきたい。」「Society 5.0に象徴されるように、今後の社会や学校環境が変わっていく中で、学校が実践していくべきことについて、見通しが持てた。子どもたちのためにできることを、先生方と考えたい。」などの感想が聞かれました。

まとめ (校内研究のPDCAサイクルを確立させるために)

- ① 校内研究の目的・意義を見つめ直す。(課題意識の共有化)
→ 研究主題を達成させるための手立てを明確化する。
- ② 校内研究の年間計画を立案し、年間を見通した意識をもつ。
→ 「いつ」「誰が」「何を」「どのように」取り組むかを明確化する。
- ③ 研究授業の質を向上させ、日々の授業改善につなげる。
→ 研究仮説が授業によってどのように実現されたかを協議する。

